

# こども分科会について

## 1 設立趣旨

こども…育ちづらさ  
親 …育てづらさ

} 子育てしやすい環境=誰もが住みやすいまちづくり

子育て…相談(核となる場)と地域づくり(つながりをつくる)が必要

## 2 これまでの取り組み <令和2年8月から令和3年7月まで>

### (1) 目標

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大に伴い、生活上の様々な面に多大な影響が及んでいる。障害児を取り巻く環境においても、新たな生活様式が広まる中で、障害の特性によっては苦手な変化の連続もあり、児童のみならずその家族や地域での生活でも多くの課題が浮き彫りになっていると考えられる。これまでの関わりだけでなく、新しい視点を持ち、広く地域における支え合いの仕組み作りが必要と思われるため、校区コミュニティや社会福祉協議会、教育機関等との連携を図っていく。

### (2) 取り組み

回数	月日	内 容
第1回	R2.9.8	地域ケース会議についての意見交換
第2回	R3.2.15	コロナ禍におけるこどもの居場所の実態調査アンケートについての意見交換 (久留米大学人間健康学部総合こども学科教授と講師の先生方)
第3回	R3.6.11 (zoom開催)	令和2年度分科会活動報告 令和3年度活動計画について 情報交換

※令和3年6月29日…幼児教育研究所ヒアリング実施

### (3) 成果

① 災害時の避難等において障害の特性に応じて適切な配慮を行うためには、その方のことをよく知る人を地域社会の中で作っておくことが望まれるという昨年度の課題に対して、地域ケース会議の開催を計画した。

津福校区での働きかけを行ったが、コロナ感染拡大防止のため、学校や校区コミュニティと継続して協議を行うことが困難となってしまった。しかし、ヘルプマークの意味や意義について地域の方々と共有することができ、津福校区広報誌で取り上げていただくことができた。

② 昨年の課題であげている「障害のある子をもつ保護者の支援」という課題に対して、保護者の会や団体からオンラインで活動報告をしてもらい、互いの団体の活動を理解することができた。

また課題の一つでもある「地域社会で支え合うコミュニティの形成」を考えるうえでもネットワーク作りの前段階となった。来年度もつな

- がり合う団体や保護者の会等を広く情報収集し視覚化していきたい。
- ③ コロナ禍において障害児にどのような不安や悩みが表出しているかの調査を行うために、久留米大学教授の方々と意見交換を実施した。結果、アンケート実施には至らなかったが、こども分科会の活動を理解してもらうとともに、今後の支援協力体制を構築することができた。
  - ④ 教育・医療・福祉・地域のシステム作りの課題に対して、幼児教育研究所での課題を把握するため、常駐医師からのヒアリングを実施。そのことで、本年度の目標「①相談の課題や療育の現状を把握し、不足している部分を補完していける仕組みを検討する」に結びつけることができた。

### 3 課題

- ・地域ケース会議開催については、津福コミセンとは地域で生活している障害のある児童の情報共有やヘルプマークを知っていただくきっかけづくりを行うことができたが、最終的に津福校区での支援関係者や地域の方々との会議開催には至らなかった。コロナ禍の動向や時期をみながら継続していく必要がある。
- ・コロナ禍での分科会開催が困難であったため、分科会の活動内容の検討が事務局主体となり、今後は参加者主体の分野・課題に取り組んでいく必要がある。
- ・事務局だけで課題を整理し、解決策を考えることはマンパワー的に難しい。既に課題に対して活動している団体へのバックアップ体制として取り組んでいく必要がある。一緒に動いてくれる人や団体を増やすためにも、こども分科会の目的や活動について、わかりやすく視覚化していく必要がある。

### 4 事業計画 <令和3年8月以降取り組み>

#### (1) 目標

令和2年度の活動を通して見えてきた課題の解決に向け、令和3年度は以下の取り組みを行っていく。

- ① 相談事業や療育の現状を把握し、抱えている課題の抽出や整理を行い、不足している部分を補完していける仕組みを検討する
- ② 障害のあるこどもが住み慣れた地域で、ともに成長していけるような学びの場を確保していけるように、団体同士の繋がりや地域づくりを支援する。

<第3期久留米市障害者計画との関係>

基本目標2.安心と安全のために

基本目標3.支援が必要な子どもの発達支援と保育・教育の充実

#### (2) 取り組み

- ・開催頻度…年5回  
※開催方法はコロナ禍の状況により、集合またはオンライン開催などその都度選択する。
- ・目標①の具体的取り組み内容  
ア.久留米市の子どもの実態把握  
イ.療育体制の現状を知る・課題を考える機会をもつ

- ウ．親の会の現状を知る・課題を考える機会をもつ
- エ．学校や学童保育所における現状を知る・課題を考える機会をもつ
- ・目標②の具体的取り組み内容
  - ア．人が集まる場をつくり、人と人をつなぐ
  - イ．団体同士がつながるきっかけづくり
  - ウ．活動の見える化

(3) 期待される成果

- ① 久留米市のこどもやこどもを支援している団体や機関の現状を知り、障害のあるこどもの療育や教育の現状課題を補完できる仕組みを考える。
- ② つながりを何らかの形で見える化することで、同じ悩みを抱えている家族へ情報提供を行い、地域で子どもたちを支えている団体や支援者が相互間で交流することにより、より深みのある地域での課題解決のネットワークづくりを行っていききたい。(機関誌で掲載予定)